

# 東北・北陸地域でタマネギが作りやすくなる春まき夏どり作型

農研機構  
研究成果の市販化情報  
6月14日  
農機新聞掲載

- 積雪下での越冬等により今まで秋まき栽培でタマネギが作りにくかった東北・北陸地域で、**春まき栽培**を行うことによってより**安定的に栽培できる**ようになる作型です。
- 地元のタマネギ需要に応えるため、**東北では普及拡大中**。

## 技術の内容

### 背景

- 近年、大産地におけるタマネギの不作がつづき、供給量や価格が不安定に・・・▶リスク分散が必要
- 東北・北陸には水田が多数あり、新たな産地形成の可能性。しかし、秋まき栽培は生産性が低く、普及していなかった。

### 技術の特徴

- 「ターザン」「もみじ3号」等、地域の気候にあった**秋まき中生～晩生品種**を選択
- 2月中に播種し水稻育苗ハウス等で育苗、4月に定植
- 7～8月の国産タマネギの端境期に収穫**



詳しい情報を知りたい、という方は下記までお気軽にご連絡ください。



東北農業研究センター  
产学連携室

TEL:019-643-3414 FAX:019-641-7794 Email : www-tohoku@naro.affrc.go.jp

## 導入のメリット

- 7～8月の端境期に収穫可能  
▶**価格面で有利**
- 収量が秋まき（慣行栽培）の2倍  
▶**多収栽培で収益力アップ**
- 在圃期間が大幅短縮（9か月（秋まき）⇒3か月（春まき））  
▶**秋野菜との輪作も可能**



国産タマネギの生産量の増加、安定供給に貢献

## 参考資料

- 栽培技術の要点を記したマニュアル

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/techpamph/062843.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/techpamph/062843.html)

「たまねぎ 春まき」の検索でも探せます！

